気象庁のデータ連携の取り組み

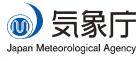
2021年2月18日

第5回気象ビジネスフォーラム

気象庁長官 長谷川 直之





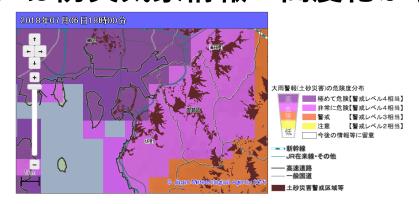


災害の頻発・激甚化を背景に、気象庁は防災気象情報の高度化に注力する一方で、<u>社会における</u> **気象情報・データの利用の裾野は拡大**しており、**気象に関わる研究開発やサービスは広がりを見 せている**。

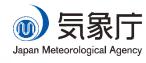
社会における気象情報・データ利用の裾野の拡大



気象庁には防災気象情報の高度化が求められている



高精度化・高頻度化・高解像度化 よりわかりやすく

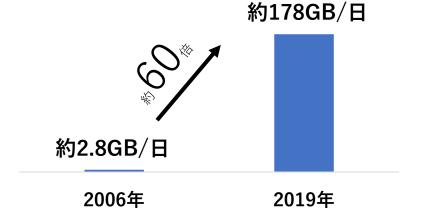


ICT化の進展によるデータ活用社会を背景に、気象情報・データの大容量化が進むのみならず、 **気象に関わる研究開発やサービスに活用できる新たな技術も登場**。

気象情報・データの高度化・大容量化

気象庁からリアルタイムに提供する 気象情報・データの容量は

十数年で約60倍



新たな技術の登場

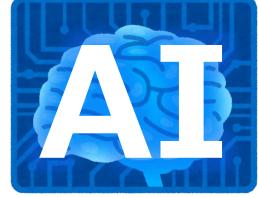
予報時間

気象パターン

観測情報

シミュレーション結果





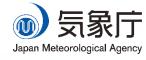


気象予測モデルの補正 観測データの品質管理 技術革新は進んでいく 気象情報・データの活用は広がっていく

未来の社会に貢献するには?



(コンセプト) 産学官の総力を結集



AI等関係する科学技術の進展や気象情報・データ利用の裾野の拡大や多様化に合わせて、未来の 社会に貢献するため、**産学官の技術やノウハウなどのリソースを結集**。

観測・予測精度向上への技術開発



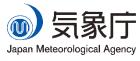
気象情報・データの利活用促進

最新の科学技術を生み出している 「学」の役割が重要 相乗効果

利用者を熟知している「産」の役割が重要

気象情報・データは、 社会経済活動の様々な場面で利活用される基盤情報へ

一人一人の生命・財産が守られ、しなやかで、誰もが活き活きと活力のある暮らしを 享受できるような社会(安全、強靭で活力ある社会)の実現



気象に関係する幅広い産学官の者による<u>対話の場(気象業務産学官連携協議会(仮))を構築</u>。 めざす発展の方向性を共通化するとともに、人材の交流や育成、産学官共同の事業、気象情報・ データの共有環境の構築などについても協議。

気象業務産学官連携協議会(仮称)

産学官それぞれの取組を共有し、気象業務全体としての目指すべき姿やそのための方策をとりま とめる。



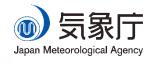
+以下のような個別の施策も議論

- 人材交流等の活発化や人材の育成・確保に関する取組の検討
- 観測や技術開発等の事業の共同実施の検討
- クラウド技術を活用した新たな気象情報・データの共有環境 の検討
- その他、産学官連携の推進に資する制度、施策等の検討

<u>産学官の技術・能力・人材・資金等を結集し、社会のニーズに効果的に対応</u>



産学官で共同の事業を推進



産学官がそれぞれの目的を持ちつつ、連携して実施することが関係者双方にとって効率的・効果的となるものについては、**産学官が有するリソースを最大限活用すべく、相互に目的を理解**した上で、観測や技術の開発等の事業を共同で実施していく。またそのための人材開発・育成を共同で実施。

共同で事業を実施

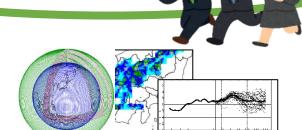
大学・研究機関



観測の実施

(例) 産学官連携による 観測網を展開





予測技術の開発

(例) AI等の最先端の技術 の予測への応用

民間事業者等

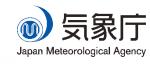


市場の開拓

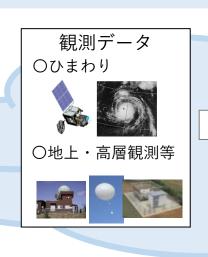
(例) 民間の事業も含め パッケージ化し、海外展開

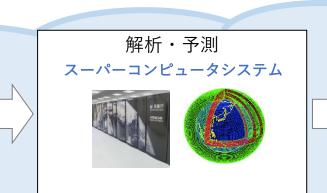
産学官の人材交流等の活発化、産学官が連携した人材の育成などでこれらを下支え

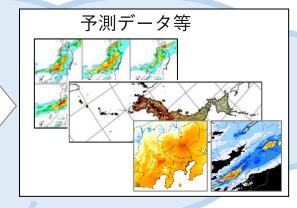
クラウドを通じた気象データ共有の環境を構築



産学官が持つ技術・能力・人材・資金等を結集し、一体となって社会課題の解決を行うため、 クラウド技術を活用して、多様で膨大な気象情報・データを共有する。









大容量の生データをクラウド通じて共有 他分野のデータとの連携や、 クラウドサービスの分析ツールの活用も可能









大学・研究機関





自治体等関係機関



気象は人間のあらゆる活動に影響を与えるが、 気象は「重要ながらもあくまで一つの要素である」

実空間でもサイバー空間でも あらゆる分野と連携する気象コンポーネントをめざし、 日本全体の活性化に貢献していきます。

